

分担研究報告書

小児・AYA世代がん患者のサバイバーシップ向上を志向した妊孕性温存に関する心理支援体制の均てん化に向けた臨床研究（分担研究課題名）

研究分担者 氏名 大須賀穰 所属施設名 東京大学大学院医学系研究科 職名 教授

研究要旨

一般に、若年乳がん患者はがん治療後に妊孕性が低下する危険性が高いことから、治療開始前に将来の妊娠希望や人生設計に関する心の整理を行う必要性があり、がん患者への心理介入が有効であることは明らかになっている。代表者が先行研究で開発した若年乳がん女性患者とその配偶者を対象とした妊孕性温存に関する心理教育とカップル充実セラピーの臨床試験の結果心理士による介入効果が示唆された。本研究では、我々は若年乳がん患者多施設合同ランダム化比較試験に参加し、研究計画立案補助、データ収集、成果発表の一部を分担する。

A．研究目的

若年成人未婚女性は、将来の結婚、妊娠・出産について不確定要素が大きいため、抑うつ・不安が強く適切な対処行動が難しく意思決定困難になりやすい。そこで、若年成人未婚女性に特化した心理教育プログラムを開発しそれによる介入を行い、精神的健康、精神的回復力に対して改善効果があるか否かを検討する。

B．研究方法

遠隔転移のない初発の乳がんの若年成人未婚女性を対象とした臨床試験の計画に参画した。また、班会議での試験の進捗、データ収集と解析など意見交換、関連学会への参加による情報収集、成果発表を分担した。

C．研究結果

当院において、乳腺外科、乳がん専門看護師、生殖専門看護師とのミーティングを重ね、合同診療チームを発足させた。チー

ムにおいて研究班開発の心理教育プログラム、臨床試験の計画につき議論するとともに、関連学会や成果発表会にて情報収集をし、その改善の必要性、実施した場合の有用性が明らかとなった。

D．考察

臨床心理士による、がん告知時の妊孕性温存に関する意思決定支援はAYAがんサバイバーシップの向上と少子化対策の一助となりうる。

E．結論

乳がんサバイバーシップの向上において、夫婦に対し、診断早期からの心理士による妊孕性温存に関するカウンセリングが有用と考えられる。

F．健康危険情報

（分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入）

## G . 研究発表

### 1 . 論文発表

1. Oncogenic histone methyltransferase EZH2: A novel prognostic marker with therapeutic potential in endometrial cancer.

Oki S, Sone K, Oda K, Hamamoto R, Ikemura M, Maeda D, Takeuchi M, Tanikawa M, Mori-Uchino M, Nagasaka K, Miyasaka A, Kashiya T, Ikeda Y, Arimoto T, Kuramoto H, Wada-Hiraike O, Kawana K, Fukayama M, Osuga Y, Fujii T. *Oncotarget*. 2017;8:40402-40411

2. Intracellular signaling entropy can be a biomarker for predicting the development of cervical intraepithelial neoplasia. Sato M, Kawana K, Adachi K, Fujimoto A, Yoshida M, Nakamura H, Nishida H, Inoue T, Taguchi A, Ogishima J, Eguchi S, Yamashita A, Tomio K, Wada-Hiraike O, Oda K, Nagamatsu T, Osuga Y, Fujii T. *PLoS One*. 2017 Apr 28;12(4):e0176353

3. Recent advances in targeting DNA repair pathways for the treatment of ovarian cancer and their clinical relevance. Oda K, Tanikawa M, Sone K, Mori-Uchino M, Osuga Y, Fujii T. *Int J Clin Oncol*. 2017;22:611-618.

4. Activation of Endoplasmic Reticulum Stress in Granulosa Cells from Patients with Polycystic Ovary Syndrome Contributes to Ovarian Fibrosis. Takahashi N, Harada M, Hirota Y, Nose E, Azhary JM, Koike H, Kunitomi C, Yoshino O, Izumi G, Hirata T, Koga K, Wada-Hiraike O, Chang RJ, Shimasaki S, Fujii T, Osuga Y. *Sci Rep*. 2017 Sep 7;7(1):10824.

5. Evaluation of the efficacy and safety of dienogest in the treatment of painful

symptoms in patients with adenomyosis: a randomized, double-blind, multicenter, placebo-controlled study. Osuga Y, Fujimoto-Okabe H, Hagino A. *Fertil Steril*. 2017 Oct;108(4):673-678.

### 2. 学会発表

1. 大須賀穰、新時代に入った日本のがん・生殖医療、第8回日本がん・生殖医療学会学術集会、2018年2月11日、東京

2. 大須賀穰、生殖医療の現状と今後の展望、JSFP-Oncofertility Consortium JAPAN meeting 2017、2017年11月3日、岐阜

3. 原田美由紀、心身ストレスから不妊へ!? ~ 卵巣機能の低下と不妊のメカニズム 卵巣におけるストレス応答から妊孕能を考える 第1回ウィメンズ・ヘルス・アクション主催 メディア向けセミナー 2018年2月14日

## H . 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

なし